

■ルリコプランニング代表 星加ルリコさん(33)

デザインの力 社会に光

この人の手にかかると、大とがデザインなんです。福の名は「mochi cream」になる。稲作に秀でた秋田県家」。請け負った矢田立郎・神戸市長の名前は、鮮やかなライトブルーを下地にした。縦型なのに名前は大きく横書きにし、強烈な印象を与える。「発想を形にするだけでなく、人を楽しませ、物事をもっと良くしようと考えるこ

神戸市出身。明石高校美術科から武蔵野美術大学彫刻学科に進み、空間演出を学んだ。97年に卒業し、都内の建築事務所に就職。都市計画の仕事が多かったが、自分のデザインにこだわった。

都市基盤整備公団(現・都市再生機構)から「宅地が売れない」と相談され、設計段階から入居者の意向を採り入れることを提案した。公団側と共同で「古民家風」「北風」の家をテーマに希望者を募り、その一部を茨城県で実現させた。

5年ほど勤め、「幅広い分野のデザインをしてみたい。将来、自分の名前前で仕事もしたい」と退職し、休暇のつもりで神戸に戻った。大きな仕事をやる気はなかったが、友人がインターネット上に紹介した星加さんのプロフィールに興味をもった神戸

依頼者にほれ、ともに考える



ユネスコのデザイン都市に選ばれたことを示すポスターを手にはほれ、星加ルリコさん。神戸市中央区波止場町のルリコプランニング

ルリコプランニング 神戸市中央区波止場町にある事務所は、倉庫だった建物を改装して使い、神戸らしさを演出している。社員は4人。07年7月に株式会社化した。代表の星加さんは、秋田県の農家と交流し、米の売買や農家への宿泊体験を企画する「こめたび」(本社・秋田市)の副社長も務める。

人
トト物語
人

学生ころは悩んだ。都内で彫刻作品の展示会を開いたが、抽象的な作品に自分でも満足できなかった。来場者の反応もいま一つだった。おかげで芸術と現実社会との接点を考えるようになり、「デザインの力を社会に役立てたい」と思うようになった。

04年に事務所を開いて神戸に腰を落し着けた。業務内容には「デザイン制作」だけでなく、「企業戦略・コンサルティング」を掲げる。

飲食店の改装やロゴマークなど常に10件ほどの仕事を抱えている。最近では秋田県を中心に農家や米の売り出し方も考えている。「伝えたいという気持ちがないと何もできない。クライアント(依頼者)にほれないといものはできない。秋田も大好きです」と笑った。(加藤裕則)